



「授業づくりの再点検」 ～若手の先生方へ～

1学期に管内の学校を訪問し、たくさんの若手の先生方の授業を参観させていただきました。ありがとうございました。まっすぐに子どもたちと向き合い、一生懸命に授業に取り組まれる姿には頭が下がりました。1学期を振り返り、2学期の授業づくりを構想中だと思いますが、以下の視点をもう一度確認していただければ幸いです。

1 具体的なめあての設定

- ① 「本時の目標」を子どもたちに分かりやすい表現にしたものが、「**本時のめあて**」です。子どもたちが理解できる表現になっているでしょうか。何をすればいいのか具体的な内容になっているでしょうか。ある先生は「教材文（説明文）を読んで感想を書こう」というめあてで終わらずに、感想とは「わかったこと」「初めて知ったこと」「驚いたこと」であるという具体的な説明を追加されていました。

めあてを見て「どういう意味？」とつぶやいている子はいませんか。

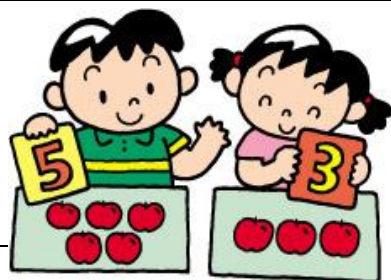
- ② 目標が達成できた子どもたちの具体的な姿を表したのが「評価規準」です。「B基準」はおおむね満足した状態で、全員に必ず達成させます。「A基準」は、B基準よりも十分に目標を達成した状況を表します。ワークシートや行動観察を通して達成状況を把握し、次の指導につないでいきましょう。



2 子どもが主体の活動であるか

- ① 「今日の勉強、どこがおもしろかった？」とよく質問します。「カードに自分の気持ちを書いたところ」と答えました。そこは本時の中で唯一**自分の考えで活動**した場面でした。丁寧であっても先生の長い説明を聞いたり、ノートに写したりするのは受け身になりおもしろくない活動になりやすいようです。
- ② 予定していた内容を1時間の中で収めようと先を急がれる先生がおられます。子どもたちの理解や反応を見て、十分でないと感じた時は、**活動時間を保障**してください。
- ③ 「つぶやき」には子どもたちの本音が出ます。素早く気づき反応することが必要です。授業を深めるキーワードになることがあるので、黒板に残しておくことも重要です。

- ④



発問して、すぐに正解が出ることもあります。が、「そうですね」と答えるのは一問一答式の授業です。「みんなはどう思う？」といった切り返して、「**学級で問題を共有する**」ことが重要です。答えが一つにならない発問を用意することはもちろん普段から心がけてほしいことです。

3 学びの手ごたえを感じさせる

「振り返り」は学びの手ごたえを感じさせます。次の学びへの意欲を高めることもできます。「できなかったことができた」「知らなかったことを知った」「もっと知りたい もっとやりたい」「友達も頑張っている」・・・具体的な視点を示すことも大事です。自分の言葉で書くことで、自分の学びを整理し、新たな課題を発見することができるのではないのでしょうか。

全員にしっかり振り返りをさせたいから、授業の最後ではなく、練習問題の前に振り返りをされる先生もおられました。

4 学級経営の視点から

- ① 授業の中で一人一人の子どもたちの居場所を確保されていると思います。いつ、誰に指名し、どんな活動をさせるのか、教師のさじ加減一つです。発言が少ない「あの子が手を挙げた！」と気づいた時には、何よりも最優先で指名すべきではないのでしょうか。
- ② 思い切って発表したけれど誤答だった。どのようなフォローをされますか。「〇〇さんの発言でもっとみんなが深く考えられたよね」等・・・。「間違っていたけど、分かってもらえた。ほめてもらった。」という気持ちにさせているのでしょうか。
- ③ 先生の計画通り、テンポよく授業が進むと、うまくいったと感じられるのではないのでしょうか。子どもたちの学習態度もいい。しかし、「黙っているけど、不満があるかもしれない」という意識を持続してほしいのです。自分の気持ちがうまく表現できない子どもたちがいることを知っていただきたいと思います。一人一人の想いを普段からさりげなく聞き取り、把握してほしいと思います。
- ④ 授業の後半で練習問題に取り組むことが多いです。しかし、仕上げる時間には個人差があります。全員が同じ問題量に取り組む必要はないと思います。例えば計算に時間がかかる子は3問、他の子は6問する。答え合わせの時に配慮すれば問題はないはずです。また、個人差が大きいので、空いた時間に「タブレットドリルに取り組ませたい」と計画されている先生もおられました。



5 学びやすい環境



ICT 機器の環境整備は必須です。デジタル教科書の活用も進んでいます。動画があるし、教科書の拡大・縮小もできます。どんどん活用を進めてください。しかし、使ったからといって、子どもたちが理解したと安心してはいけません。教科のねらい、情報活用能力のねらいを整理して評価をしてください。

デジタル教科書を使わずに、あえて模造紙に拡大コピーした教材を活用された先生がおられました。理由を聞くと「教室に掲示し、いつでもそこに戻りたいから。」と言われました。活用する教材の特性を踏まえた活用だと思いました。

教師の笑顔は最高の環境だと思います。その上に上手なほめ言葉を言われたら、子どもたちはますますやる気になります。そして教師が楽しいと感じながら取り組んでいる授業は、子どもたちもきっと楽しめるのではないのでしょうか。

参考：兵庫県版情報活用能力体系表例（小中学校）

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）